

国語

○試験開始のチャイムが鳴るまで問題用紙を開いてはいけません。

○解答用紙に組・出席番号・氏名を必ず書くこと。

○質問があれば静かに手を挙げて、監督の先生を呼びましょう。

○字は楷書で丁寧に書くこと。読めないものは採点できません。

○抜き出して答える問題は、漢字が間違っているも抜き出し箇所が正しければ正答とします。ただし、明らかに異なる漢字を書いている場合や、漢字間違いに よって意味が変わってしまう場合は誤答とします。

○質問に対して適切な形で答えましょう。例えば、

「どういうことですか」という問いには、「〜こと」という形で答えましょう。

「どういつときですか」という問いには「〜とき」「〜という形で答えましょう。守れていない解答は減点します。

○分かる問題から解いていきましょう。

○見直しは必ずしましょう。

○最後まで諦めずに取り組みましょう。

- 単元別漢字P50～61
- 青(赤)プリント7・8
- 敬語(P256・257)
- 用言の活用(P258～261)
- 助詞・助動詞(P262～267)
- 依頼状やお礼状を書こう(P146・147・304・305)
- 走れメロス(作者については便覧P154)
- 「正しい」言葉は信じられるか

一、次の傍線部の漢字は読みを答え、ひらがなは漢字で答えなさい。楷書で丁寧に書くこと。〔知識・各1点〕

- | | | | |
|-----------|-------------|-------------|-----------|
| ①負債を追う。 | ②堤防を築く。 | ③堆積する。 | ④人質を放免する。 |
| ⑤卑劣な行い。 | ⑥自由を享受する。 | ⑦戒めを守る。 | ⑧耳鼻咽喉科。 |
| ⑨仕事が滞る。 | ⑩憤慨させる。 | ⑪大きなつなみ。 | ⑫じんそくな対応。 |
| ⑬策をろうする。 | ⑭糖分をせつしゆする。 | ⑮ゆうづうが利かない。 | ⑯じあい満ちた人。 |
| ⑰敵をいかくする。 | ⑱風船がはれつした。 | ⑲さぎにあう。 | ⑳虫のしがい。 |

二、次の各問いに答えなさい。〔知識・各1点〕

- (1) 次の慣用語およびことわざの意味として適切なものを、それぞれア～コから選びなさい。
- | | | | |
|----------|-------------|---------------|----------|
| ①猫に小判 | ②鶴の一声 | ③雀の涙 | ④かえるの面に水 |
| ⑤えびで鯛を釣る | ⑥枯れ木も山のにぎわい | ⑦船頭多くして船山にのぼる | |
- ア わずかな量 イ 非常に仲が悪いこと ウ 欲しいものを与えること エ 権威のある人の一言
オ 価値が分らない カ どんな目にあつても平気なこと キ 優秀な者を大勢集めて成功すること
ク 少しの元手で大きな利益を得ること ケ つまらないものでも、ないよりはましだ
コ 指示する人が多くて、かえって物事の方向がおかしくなること

- (2) 傍線部の語句が誤つて使われている文を、次のア～コから三つ選びなさい。
- ア 辺りを**はばかり**、小さな声で話す。 イ 楽しくなつて、たまらずじだんだ踏む。
ウ 一組、**なんなく**二班は頑張つた。 エ 幼いころから仲のいい彼は、竹馬の友といえる。
オ 思つていた通りのことが降つて湧いた。 カ 人の失敗を嘲笑する。
キ 邪悪な感情が心に**巣くう**。 ク 彼は周囲をまったくかんがみない。
ケ 独り合点して大失敗する。 コ 攻撃にひるんで動けなかった。

(3) 次の言葉の、尊敬語にあたる動詞と謙讓語にあたる動詞をそれぞれ答えなさい。

- ただし、「おや」「こ」をつけるだけの接頭語表現や、助動詞を用いた表現は使わないこと。(ひらがな可)
- | | |
|-------|------|
| ① 食べる | ② 行く |
|-------|------|

(4) 次の傍線部の助動詞の種類を、ア～エから選んで記号で答えなさい。

- | | | |
|-------------------|---------------------|--------------------|
| ① 失敗もあつたが、うまくいった。 | ② 今から、すぐ始めなさい。 | ③ 言わなかつたのは、あなたですよ。 |
| ④ それ、どこで買ったの。 | ⑤ 先生に、チャーハンを作る。 | ⑥ 小さな子供すら、自分でしていた。 |
| ⑦ あきらめたりなどしないさ。 | ⑧ 音楽を聴きながら、ごはんを食べる。 | |
| ⑨ 友達が、教えてくれた。 | ⑩ この方法で、いいのかしら。 | |

ア 格助詞 イ 接続助詞 ウ 副助詞 エ 終助詞

(5) 次の傍線部の助動詞と意味・用法が同じものを、それぞれア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 今夜は、皆既月食が見られるそうだ。 | イ 図書館では、五冊まで本が借りられる。 |
| ア 困っているところを友達に助けられる。 | エ 校長先生が校庭に記念樹を植えられる。 |
| ウ 入院している祖母の容態が案じられる。 | |

② サイレンが鳴っている。近所で火事が起きたようだ。

ア 降り積もった白い火山灰は、まるで雪のようだ。
ウ この遊園地は、絵本で見たおとぎの国のようだ。

イ この葉の形は、トランプのハートのようだ。
エ うわさによると、犯人は体の大きな男のようだ。

③ おもしろい小説は、読み始めたらず途中でやめられない。

ア 用事が立て込んでいて、なんだかせわしない。 イ かぜをひいているので、今日はおふろに入らない。
ウ 暗い夜道が怖いから、一人では歩きたくない。 エ こんなにきれいな星空は見たことがない。

三、次の文章【A】【B】【C】を読んで、それぞれの問いに答えなさい。 【A】【知識】 【B・C】【読む】

※文章ごとに設問が(1)からはじまります。解答欄の記入箇所に注意してください。

文章【A】 物語冒頭部分

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治が分からぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。けれども邪悪に対しては、人一倍に①敏感であった。今日未明メロスは村を②出発し、野を越え山越え、十里離れたこのシラクスの町にやってきた。メロスには父も、母も③ない。女房もない。十六の、内気な妹と二人暮らしだ。この妹は、村のある律儀な一牧人を、近々、花婿として迎えることになっていた。結婚式も間近なのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣装やら祝宴の「ごちそうやらを買いに、はるばる町にやってきたのだ。まず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今はこのシラクスの町で、石工を④している。その友を、これから⑤訪ねてみるつもりなのだ。久しく⑥会わなかったのだから、訪ねていくのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、町の様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も⑦落ちて、町の⑧暗いのはあたりまえだが、けれども、何だか、夜のせいばかりではなく、町全体が、やけに⑨寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になってきた。道で会った若い衆を捕まえて、何かあったのか、二年前にこの町に⑩来たときは、夜でも皆が歌を歌って、町はにぎやかであったはずだが、と質問した。若い衆は、首を振って⑪答えなかった。

(1) 傍線①「敏感で」 ②「出発し」 ③「ない」の品詞名をそれぞれ漢字で答えなさい。

(2) 傍線④「し」 ⑥「会わ」 ⑦「落ち」 ⑩「来」 ⑪「答え」の活用の種類をそれぞれ答えなさい。
省略して書かないこと。(ひらがな可)

(3) 傍線⑤「訪ね」 ⑧「暗い」 ⑨「寂しい」の二こでの活用形をそれぞれ答えなさい。(ひらがな可)

(4) この文章は「走れメロス」という小説の冒頭部分である。この作品の作者名を漢字で答えなさい。

(5) (4)の代表作として適するものを次のア～コからすべて選びなさい。〔完答で1点〕

ア トロコ	イ 富嶽百景	ウ 雪国	エ 羅生門	オ 斜陽
カ 人間失格	キ 杜子春	ク 舞姫	ケ 津軽	コ 高瀬舟

メロスは両手で老爺の体を揺すぶつて質問を重ねた。老爺は、辺りをはばかりる低声で、僅か答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのだ。」

「悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心を持つてはおりませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、初めは王様の妹婿様を。それから、「自身のお世継ぎを。それから、妹様のお子様を。それから、皇后様を。それから、賢臣のアレキス様を。」

「驚いた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございませぬ。人を、信ずることができぬ、ということです。このころは、臣下の心をも、お疑いになり、少しくはでな暮らしをしている者には、人質一人ずつ差し出すことを命じております。」「命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。今日は、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「あきれた王だ。生かしておけぬ。」

①メロスは、単純な男であつた。買ひ物を、背負つたままで、のそのそ王城に入つていった。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出てきたので、騒ぎが大きくなつてしまつた。メロスは、王の前に引き出された。

「この短刀で何をするつもりであつたか。言え！」暴君ディオニスは静かに、けれども威厳をもつて問い詰めた。

②その王の顔は蒼白で、眉間のしわは、刻み込まれたように深かつた。

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは悲げずに答えた。

「おまえがか？」王は、憫笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえには、わしの孤独が分からぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきり立つて反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥すべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさへ疑つておられる。」

「疑うのが、正当の心構えなのだ、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、当てにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほつとため息をついた。「わしだつて、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「黙れ。」王は、さつと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人のほらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだつて、今に、はりつけになつてから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王はりこうだ。うめぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、——。」と言いかけて、メロスは足もとに視線を落とし瞬時ためらい、「ただ、私に情けをかけたつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、こゝへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しわがれた声で低く笑つた。「とんでもないうそを言うわい。③逃がした小鳥が帰ってくるというのか。」

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張つた。「私は約束を守ります。私を、三日間だけ許してください。妹が、私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを、人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、こゝに帰つてこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そつとほくそ笑んだ。生意氣なことを言うわい。どうせ帰つてこないにきまつている。このうそつきにだまされたふりして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三

目目に殺してやるのも気味がいい。人は、これから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。

「④願いを、聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰ってこい。遅れたら、その身代わりを、きつと殺すぞ。ちよつと遅れてくるがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

「なに、何をおつしやる。」

「はは。命がだいじだったら、遅れてこい。⑤おまえの心は、分かっているぞ。」

(1) 傍線①について、あとの問いに答えなさい。

1 メロスのどのような点が「単純」といわれているのですか。ア、エから選び、記号で答えなさい。[1点]

ア 妹のことが好きすぎる点。 イ 他人を信じやすい点。

ウ 感情のままに行動する点。 エ 他人の影響を受けやすい点。

2 「単純」な行動が具体的に表現されている箇所を、文章【B】から二六字で抜き出し、初めと終わりの三字を答えなさい。句点(。)は含みません。[1点]

(2) 傍線②には、王のどのような心情が表れていますか。ア、エから選び、記号で答えなさい。[1点]

ア 人を信じるができない苦しみや孤独。 イ 牧人の短剣で殺されるかもしれないという恐怖

ウ 王としての威厳を見せつけようという見栄。 エ 不審者の入城を許した警備の甘さに対する怒り。

(3) 傍線③とは何の比喩ですか。三字で答えなさい。[1点]

(4) 傍線④とありますが、なぜ王はメロスの願いを聞いたのですか。ア、エから選び、記号で答えなさい。[1点]

ア メロスの無二の親友を磔刑に処してやるのが楽しみだから。

イ 本当にメロスが戻ってくるか自分の目で確かめたかったから。

ウ 人が信用できないことを人々に見せつけてやりたかったから。

エ ひよつとしてメロスは信用できるのではないかと思ったから。

(5) 傍線⑤とありますが、王はメロスがどうすると考えているのですか。簡潔に答えなさい。[2点]

(6) メロスと王は人の心についてどのように考えていますか。「人の心」という言葉を用いて、二人の対立した考えをそれぞれ答えなさい。[面正当3点]

文章【C】 物語終盤（心身ともに疲れ果て、一度立ち上がれなくなったメロスでしたが、再度走り出しました）

「ああ、メロス様。」うめくような声が、風とともに聞こえた。

「誰だ。」メロスは走りながら尋ねた。

「フィロストラトスです。」ざいます。あなたのお友達セリヌンティウス様の弟子でざいます。」その若い石工も、メロスの後について走りながら叫んだ。「もう、だめでざいます。無駄でざいます。走るのは、やめてください。もう、あのかたをお助けになることはできません。」

「いや、まだ日は沈まぬ。」

「ちょうど今、あのかたが死刑になるところです。ああ、あなたは遅かった。お恨み申します。ほんの少し、もうちょっとでも、早かったならー！」

「いや、まだ日は沈まぬ。」メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。走るよりほかはない。

「やめてください。走るのは、やめてください。今はご自分のお命がだいじです。あのかたは、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様が、さんざんあのかたをからかっても、メロスは来ます、とだけ答え、強い信念を持ち続けている様子でざいました。」

「それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ。間に合う、間に合わぬは問題でないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、何だか、①もつと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。ついてこい！ フィロストラトス。」

「ああ、あなたは気が狂ったか。それでは、うんと走るがいい。ひよつとしたら、間に合わぬものでもない。走るがいい。」

言うにや及ぶ。まだ日は沈まぬ。最後の死力を尽くして、メロスは走った。メロスの頭は、空っぽだ。何ひとつ考えていない。ただ、訳の分からぬ大きな力に引きずられて走った。日は、ゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も、消えようとしたとき、メロスは疾風のこどく刑場に突入した。間に合った。

「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰ってきた。約束のとおり、今、帰ってきた。」と大声で刑場の群衆に向かつて叫んだつもりであったが、喉がつかれてしわがれた声がかすかに出たばかり、②群衆は、一人として彼の到着に気がつかない。既にはりつけの柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは、徐々に上げられてゆく。メロスはそれを目撃して最後の勇、先刻、濁流を泳いだように群衆をかき分け、かき分け、

「私だ、刑吏！ 殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいて、かすれた声で精いっぱいに叫びながら、ついにはりつけ台に登り、つり上げられてゆく友の両足に、かじりついた。群衆は、どよめいた。あつぱれ。許せ、と口々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて言った。「私を殴れ。力いっぱい頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君がもし私を殴ってくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえないのだ。殴れ。」

セリヌンティウスは、③全てを察した様子でうなずき、刑場いっぱいに鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。殴ってから優しくほほ笑み、

「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生まれて、初めて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君と抱擁できない。」

メロスは腕にうなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。

「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、それからうれし泣きにおいおい声を放って泣いた。群衆の中からも、歎歎の音が聞こえた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人のさまを、まじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、④顔を赤らめて、「こつ言った。

「おまえらの望みはかなったぞ。おまえらは、わしの心に勝ったのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしをも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

どつと群衆の間に、歓声が起こった。

「万歳、万歳万歳。」

一人の少女が、緋のマントをメロスにささげた。メロスは、まごついた。よき友は、氣を利かせて教えてやった。

「メロス、君は、真つ裸じゃないか。早くそのマントを着るがいい。このかわいい娘さんは、メロスの裸体を、皆に見られるのが、たまらなく悔しいのだ。」

⑤勇者は、ひどく赤面した。

(1) 傍線①とはどのようなものだと考えられますか。ア～エから選び、記号で答えなさい。〔1点〕

ア 民のために邪知暴虐の王を倒さなければならぬという使命。

イ 走るからには間に合わなければならないという意地。

ウ 友人の尊い命を助けなければならないという目的。

エ 信実が確かに存在することのあかしを立てるといふ責務。

(2) 傍線②の描写は、物語の展開上どのような効果があるといえますか。最も適するものをア～エから選び、記号で答えなさい。〔1点〕

ア 群衆が冷たい様子を強調し、メロスがよりかわいそうな印象になる効果。

イ メロスに氣が付かず処刑が始まってしまうことで、物語の読者をほらはらせる効果。

ウ メロスは結局口だけの男であつたのだと、読者をがっかりさせる効果。

エ 友を救うのに一生懸命なメロスと、処刑を見物してきた愚かな群衆を対比する効果。

(3) 傍線③について、あとの問いに答えなさい。

1 セリヌンティウスはどのようなことを察したのだと考えられますか。「メロスが」に続くように簡潔に答えなさい。〔2点〕

2 セリヌンティウスが察した内容を、メロス自身はどのように表現していますか。文章〔C〕から三字で抜き出して答えなさい。〔1点〕

(4) 傍線④とありますが、このときの王はどのような気持ちだつたと考えられますか。ア～エから選び、記号で答えなさい。〔1点〕

ア 信実など絶対に存在しないというそれまでの自分の考えが間違ひだつたと思い知らされて、屈辱を感じている。

イ メロスたちによって信実の存することを見せつけられ、不満を感じながらも自分の負けを認めざるを得なくなっている。

ウ 人を疑つてばかりだつた今までの自分を恥じるとともに、信じあえる友を持った二人をうらやましく思っている。

エ それまで何とか保ち続けてきた自分の威厳が崩れていくのを感じ、メロスたちや民衆に対して嫉妬している。

(5) 傍線⑤は物語全体の締めくくりの一文となっていますが、これはメロスの様子を描き出す表現のうえで、作品のある箇所と対になっています。その箇所を文章〔A〕〔B〕〔C〕全てから探し、八字で抜き出して答えなさい。句点。()は含みません。〔2点〕

四、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。①～⑤は段落番号です。〔読む〕

①更に別の例を見てみたい。これも新聞の記事である。ある大臣と、その大臣に批判的な人たちについて、①次のような報道がなされた。

【A新聞】

〇〇大臣を取り囲んだ市民から、多くの質問や疑問の声があがったが、大臣はそれを平然と無視した。

【B新聞】

〇〇大臣を取り囲んだ群衆から、多くの罵声が浴びせられたが、大臣は冷静さを失わなかった。

②これについて、例えば、大臣を取り囲んだ人々が発したのは「質問」なのか「罵声」なのか、どちらが事実かと問うことは意味がない。事実は単に事実であり、言葉を伴って存在しているわけではない。書き手が、その事実を表現するために、ある言葉を選んだのである。誰かが、自分の意見を、疑問文の形で大声でわめいたとき、それを「質問」と表現しても、「罵声」と表現しても、どちらも間違いではない。ただ、私たちは、どちらの新聞を読むかによって、ここで起きた事件に対して異なった印象を持つことになる。

③人間の性格などを表す言葉では、言葉の選び方によって、長所を短所に表現したり、短所を長所に表現したりすることも可能となる。例えば、「陰気な」人は「a」「人」と言ってもいい。「地味な」人柄は「b」「人柄」であり、「おせっかい」は「c」である。人間の性格は、それを表現する言葉と本来的に結び付いているものではなく、見方によって長所になったり短所になったりする。これは、ちょうど上の図形※が、Aから見れば「へこんでいる」が、Bからは「突き出ている」ように見えるのと同じである。

④したがって、ある人物について明らかに異なった評価がなされたとき、どちらかが正しくどちらかが間違っていると簡単に考えてはいけな。両方とも「正しい」——間違いではない——場合もありうるのである。例によって、②③の新聞記事を比較してみよう。

【A新聞】

（某氏の性格について）——頑固で、柔軟性に欠け、融通が利かない。自分の思いどおりに振る舞い、周囲の意見に耳を傾けない。

【B新聞】

（某氏の性格について）——意志が強く、いちずな性格で、曲がったことが嫌い。自分の信念を貫き、他人の意見に流されない。

⑤私たちは、日常生活の中で、うそや誤りを警戒し、そういうものにだまされないよう用心する。だが、人をだますのは、うそや誤りだけではない。「正しいこと」——間違いではないこと——も、ときには人をだまし、欺くのである。②③では②の新聞記事と比較したが、そのうちの片方だけを読み、そこに書かれていることをそのまま「事実」だと信じ込んだとき、その人は③「正しいこと」にだまされているかもしれない。そうならなかっためにも、私たちは、言葉の持つ性質——事実と言葉との関係——をしっかりと理解し、物事を複数の視点から眺める習慣を身につけなければならない。

（香西秀信）「正しい」言葉は信じられるか〔より〕

※図形は省略しています。

(1) 傍線①について、あとの問いに答えなさい。

1 A新聞中に「平然と無視した」とありますが、この点をB新聞ではどのように表現していますか。記事から抜き出して答えなさい。〔1点〕

2 大臣に好印象を抱くのは、どちらの新聞を読んだ時といえるでしょうか。アルファベットで答えなさい。〔1点〕

(2) 傍線②とありますが、二つの記事から読み取れる「某氏」の人物像として適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。〔1点〕

ア A新聞では、頑固でも周囲から愛される情に厚い人物。

イ B新聞では、他人に興味がなく、自分の力しか信じていない人物。

ウ A新聞では、誰にも慕われる、強い判断力を持った人物。

エ B新聞では、固い意志や確固とした正義感を持った人物。

(3) 傍線③とありますが、新聞を読む場合、どのようなときに「正しいこと」にだまされるのですか。文章中の言葉を用いて簡潔に答えなさい。〔2点〕

(4) 文章中の空欄 a ～ c に当てはまる言葉として適切なものを、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。〔各1点〕

ア 世話好き イ もの静かな ウ 落ち着いた エ ほからかな

(5) たとえ同じ事実を正しく伝えていても、異なった印象を生じさせてしまう要素が二つあると授業で学習しました。この文章の段落①～④の内容は、その二つのうち、どちらの要素についてのことか述べられているでしょうか。段落①～④の中から六字で抜き出さない。〔1点〕

(6) 同じ事実を述べている次の二つの文について、印象の違いが生じている原因を簡単に説明しなさい。〔3点〕

【A】この工事によって、動植物の生態系を破壊した。

【B】この工事によって、動植物の生態系に影響を与えた。

五、次の手紙は、中学生の純平くんが職場訪問でお世話になった方に宛てて書いたお礼状です。
これについてあとの問いに答えなさい。〔書く〕

① 前略 ー

A

ー

② 皆様がたはいかがお過ごしでしょうか。こちらは期末試験に向けて、本格的に学習に取り組もうとしているところです。

さて、先日はお忙しい中、私たちの所内見学やインタビューをお受けいただきまして、ありがとうございます。おかげさまで、自然保護の実態を間近に見ることができ、たいへん勉強になりました。何よりも、皆様が熱心に環境整備をするお姿を見せていただいたことは、私たちの学習テーマである「自然との調和」についてますます深く考えさせられるきっかけとなりました。

③ 撮らされた写真やインタビュー記事をレポートにまとめました。コピーを一部同封いたしますので、どうぞ所内の皆様でご覧ください。
い。

これから寒さの厳しい季節となります。風邪などひかれませんように、お体を大切になさってください。

④ 敬具

令和三年一月二十四日

⑤ 追浜中学校二年三組 佐々木純平

⑥ 地球愛護センター 所長

小椋裕太様

- (1) 傍線①～⑥の内容や形式が、この場面での手紙の書き方として適切であれば○を、不適切であれば適切な形に直して答えなさい。〔各1点〕

※説明が必要なものは、「○○が○○なので○○にする」など、この程度の簡単な説明でよい。

- (2) この手紙の末文にあたる箇所最初の五字を抜き出して答えなさい。〔1点〕

- (3) 空欄Aに当てはまる文として、適するものをア～コから三つ選び、記号で答えなさい。〔各1点〕

ア 冷たい木枯らしの吹く今日このごろです。

イ あじさいの花の美しい季節となりました。

ウ 紅葉の色鮮やかな季節となりました。

エ 日増しに暖かくなってきました。

オ 残暑の厳しい日々が続いております。

カ すっかり外は冬の景色になってまいりました。

キ 花々が色とりどりに咲く季節となりました。

ク さわやかな秋風の吹く頃となりました。

ケ 若葉の緑が鮮やかさを増してまいりました。

コ 寒さが身にしみる今日このごろです。

問題は以上です。お疲れ様でした。

誤字脱字、解答欄の間違いなどがないかしっかり見直しをしましょう。